

2024 年度 国際教養学部 FD 活動報告

国際教養学部では、2024 年度の FD 活動方針として以下の 2 点を挙げた。

(1) ポートフォリオを通じて学生が行った自己評価を再点検する。2023 年度から開始したルーブリック評価の実施状況と今後の運用について、あらためて教員間で課題を共有し、どのような対応・体制が求められるのか、改善課題は何か、さらに指導にどのような工夫が求められるか、議論する場を設ける。

(2) 演習運営の向上を通じ、卒業時のアウトカム（卒業論文）向上を目指す。毎年、教員間で卒業論文のテーマや内容を共有する FD 活動を行うと同時に、国際教養学部のアーカイブとしてデジタル保存し、さらに各ゼミから選出した優秀論文を学部生に公開する体制は整ってきた。そこで、2024 年度は、その活動過程で浮かび上がってきた課題についてあらためて議論する場を設ける。具体的には、学部で積み上げてきた学びを学生自身が自分の研究に反映させるための道筋が共有されているかどうか、論文執筆に必要な論理的な思考をどう構築するか、等について自己点検しつつ、卒業論文という成果物をどのように学部での学びの集大成にできるか、議論を始める。

以上の点に基づき、国際教養学部では以下のように 2 回の FD 研修会を実施した。

(1) 「国際教養学部の将来構想についてみんなで考える」

(2024 年 6 月 19 日実施、於 Q71、参加人数 18 名、

講師：国際教養学部 山岸敬和教授、北村雅則教授)

<当 FD 研修会の目的>

1. 初年次必須講義「国際教養学部入門」(各教員によるオムニバス形式)の内容を振り返ることで、国際教養学部における「国際教養」とは何か、今一度明らかにする。
2. DP 再整備に伴い、国際教養学部の強みは何かを考えることで将来のあるべき姿を共有する。

学部学生の学びに関する対応や体制に関する課題を共有するために、国際教養学部初年次の土台となる「国際教養学入門」を担当する教員(学部全教員が担当)がそれぞれの講義内容に基づき、国際教養とは何か、国際教養学部とは何か、学部の強みを生かす将来像は何か、について、山岸教授のファシリテーションのもと、意見交換をした。英語で学ぶ国際教養という位置付けを再確認し、次年度に向けた「国際教養学入門」講義内容の充実に努めることとした。

DP に関して、学科長の北村教授より、現 DP の理解を改めて深めるとともに、新 DP にむけて求められている改正ポイントについて、どのように対応したのか報告があった。

(1) 1年 Q1・Q2 に開講されている1年生必須科目「国際教養学入門」を担当する教員(学部全教員が担当)が講義の内容に基づいて、①国際教養とは何か ②国際教養学部とは何か、どう考えるか、を発表し合うことで学部の現在地を確認。

(2) 国際教養学部が英米学科や総合政策学部と違う点は何だろうか、を考えつつ、学部の強みを生かす将来像は何か、について意見交換。

(3) DP 再整備について、本 FD を担当した北村学科長、山岸教授より現在の DP と改正案について報告があった。

(2) 「2024 年度卒業論文報告とゼミ運営について」

(2025 年 3 月 3 日、オンライン、参加人数 16 名、司会：国際教養学部 平岩恵里子教授)
＜当 FD 研修会の目的＞

1. 2024 年度卒業論文を報告し合うことで、論文指導の good practice を共有すると共に、学生指導で苦労した点や課題についてお互いに学び合う。
2. 国際教養学部では、2024 年度から3年生も専門ゼミが始まった(昨年度までの専門ゼミは4年生のみ)。初めて2年間のゼミ活動となったことに伴い、ゼミ運営の good practice を共有すると共に、課題も明らかにし、次年度に向けてより良いゼミ運営を考える。

3 年次・4 年次のゼミを担当する教員で情報共有した。卒業論文テーマについては、これまでにない新規テーマに積極的に取り組んだ学生がいる一方で、過去の卒業論文テーマや講義内容に似たテーマも多く、新しい視点で社会を切るような挑戦的な取り組みをする学生が少ないのではないか、という課題が浮かび上がった。

また、論文執筆に欠かせないのは先行研究サーベイだが読む力の土台となる学問として不可欠な基礎知識(経済学や言語学等)の不足が指摘され、3 年次から4 年次への専門知識の積み上げを意識して運営することの必要性が共有された。

ゼミ運営については、様々な工夫が報告され、課題と共に情報共有することができた。例えば、3 年次・4 年次を合同で行う、近接の学問に取り組むゼミ同士で合同発表会を行う、学生の研究意欲向上のために他流試合(CJS 学生との合同ゼミ、海外校とのセミナー開催やインターゼミ参加)を行う、等の取り組みが紹介された。

以上のように、ゼミ運営の在り方について自己点検しつつ情報共有できたが、ゼミにおいて専門分野を学び研究するためのスキル(文献サーベイや論文の読み方・書き方)を充実させる必要があることを、普段の講義から念頭に置くことが必要という認識も得られた。